

## 7年度 長浜米原休日急患診療所運営委員会 概要

日時　　:令和7年11月6日(木) 18:00~19:10

場所　　:湖北医療サポートセンター2階 B会議室

出席委員:10人

◎森上直樹委員、○西村正孝委員、嶋田義孝委員、久留島文治委員、  
小室太郎委員、東野克巳委員、嶋村清志委員、菖蒲池学委員、  
高橋巧委員、山口博之委員  
(◎委員長、○副委員長)

欠席委員:1人

中村誠昌委員

オブザーバー:湖北医師会 堀川事務局長

傍聴者:なし

事務局:長浜市地域医療課 津田課長代理、横田主幹、宮本主幹、村田看護師

### 会議の経過概要

開会 18:00

あいさつ 地域医療課 津田課長代理

委員の紹介

会議成立の確認

報告事項

報告事項1 令和6年度長浜米原休日急患診療所事業報告について

報告事項2 令和6年度長浜米原休日急患診療所歳入歳出決算について

事務局から資料4-1、4-2、5-1、5-2、6について説明。意見など特になし。

報告事項3 令和7年度長浜米原休日急患診療所診療状況について

事務局から資料7、8、9にて説明。

【副委員長】 休日急患診療所の受診者が減ってる原因是、コロナ感染症だけだろうか。

たとえば、当院の透析の患者さんは減ってきてる。その減っている理由は、糖尿病治療がかなり充実して、病気の治療がきちんとできたことで患者さんが減っているというふうに糖尿病学会でも言っている。患者数が減

っているのはコロナ禍による受診控えですという1つの理由だけで済むのかどうか。例えば受診されている方の重症度の割合、ウォークインで来られる方と救急車で来られる方とその割合がどうなってるのは大変だと思う。病院の先生方が早期に診断して早期に治療進んでいるから、救急車で来られる方が減っているなど。軽症の方は、自分で休日急患診療所に来られている。結局減っているのだと思うが、それ以外の理由を、皆さんどういうふうに考えておられるか。

【委員長】 診療控えだけではなく、以前から市の方ではコンビニ受診を控えましょうという啓発をずっとやってきた。私も広報に書かせてもらったことがある。そのコンビニ受診を控えましょうという啓発が大分広がってきてるようだ。休診の患者が少なくなるということは別に悪いことではない。休診が減ることによって病院の受診者が増える、これは問題。休診を始めた一番の目的というのは、病院の先生方の負担を軽減しようというもの。休診が減つて病院の受診者が増えるとよくない。病院も休診も受診者が減っているのであれば、流れとしてはよいのではないかと思う。病院の患者さんの流れはどうか。

【委員】 全く同じ傾向で、一定減ってきている。

【委員】 同じく減ってきている。

【委員長】 地域全体として減っているのであれば、それはいいことかと思う。ただ、市の負担金がどうか、収益がどうかという話になると、市の方はちょっと辛いかもしれないが、悪いことではないというふうにとらえてもらいたい。医業費用を減らすところは、今まで努力してきたがなかなか難しい。

【副委員長】 赤字は多分このまま続くんだろうが、それは市のほうとして理解されてることでよいのか。それとも患者数も減ってきてるので、診療時間を短縮して人件費を節約するとか、どうなんだろうか。

【委員長】 休診を開いている時間は、休診を受診するように言われるが、その時間を過ぎれば病院に行ってもよいという考え方聞いたことがある。今までだと、18時まで病院に行かなかったのが、休診を15時や16時に終わったとしたら、その時間を持って病院に行かれることになるのが危惧される。とにかく一番の目的は、病院の先生方の負担を減らすということなので、なかなか難しいと思う。

【副委員長】 資料9を見ると、17時から18時の患者さんが一番少ないので、1時間ぐらい繰り上げてもいいのではないかという気はするが。

【委員長】 この資料から見るとそうだが、休診が終わった途端に病院の患者さんが増えるというふうに、病院の先生から聞いている。

【委員】 以前だと、病院も抱えきれなかったと思うが、現状では大丈夫じゃないかとは思う。

【委員長】 病院の先生方に、余裕ありますか。

【委員】 お役に立てることは、立ちたいと思っている。

【委員長】 仮に今18時で終了しているのを、短くする部分には病院では問題ないと。

【委員】 問題ない。

【委員】 資料9は、1時間ごとのグラフになっているが、実際は17時30分で受付終了しているので、この時間の半分。そういうことを考えると極端に減ってるわけではないのではないか。

【事務局】 コロナの影響で、患者さんが減っただけでなく、適正受診の啓発は進んでいると感じている。来られる患者さんの重症度の比較データはないが、今まで安易に来られていた方が、自宅でまず様子を見ようという意識が高まっていると感じる。ただ、大人の方に関しては、休診を知らないで病院に行ってしまわれる方もまだおられるようなので、適正受診のPRを大人の方にしていかないといけないと思っている。

【委員長】 内科の場合は、さっき事務局からも説明されたように、病気をいくつか抱えたり、ある程度の基礎疾患を持ったりする方はたくさんある。そういう場合には、普段かかっている病院に行くのは当然のことだと思う。小児科と内科で比率が違うというのはそういうことだと思う。啓発が行き届いていくと思う。

【委員】 資料14ページをみると、コロナ禍で令和2年に受診者が減っているが、その後は増加傾向であり、次も増えるのではないかと予測される。今は以前

よりはまだ何とか余裕あるかなということだが、3年後ぐらいには元通りかもしれない。啓発の効果や人口減少などにより、令和元年までは戻らないにしても、救急が大変になるのではないかと心配している。

もう1つは、令和元年までは3割ぐらいが休日急患診療所で初期対応をしていただいた。それがコロナ後は2割ぐらいまで落ちている。ここはやはりまず、休日急患診療所に行っていただくように、大人の方にも引き続き啓発するべきだろうと思う。

小児については、休日急患診療所の割合が徐々に減っている。ということは、病院に直行しているということになるので、やはり、休診に行くように啓発をしていかないといけないと思う。

全体のボリューム的には、確かに減っているが、病院はそれほど減っておらず、2~3年後には戻ってしまうのではないかと危惧している。啓発で令和元年の受診者数までは戻さないようにできると良いが。

重症度については、患者さんを実際に見ていただいている先生方の印象を教えていただきたい。

【委員長】 コンビニ受診が明らかに減っていると思う。年末は呼吸症状の人が多い。以前は鼻水ができるとか、いつもの薬がないとか、その程度の方が結構多かったが、そういう方は減ってるようだ。コンビニ受診、つまり軽症の方が減った。中等症以上の方が変わらなかったとしたら、当然、その軽症の方を診るのが、休日急患診療所だったわけだから当然。これがじわじわ減っていったとしても、決して、休日診療所から病院に流れているんではなく、コンビニ受診されていたということで説明がつくと思う。ただ、病院の実数が増えたら、これは別。

【委員】 人口減少もあるだろう。14ページだが、大人も子どもも目標設定50%となっている。大人は、3割から4割ぐらい休診に頑張って診てもらっていた。13ページの割合を見ると、子どもは7割ぐらいまで休診の先生に頑張ってもらっていたので、大人と子どもを、それぞれを分けて目標設定してもいいのかなと思う。

【委員】 まずさっきの1つの話で懸念したのが、コロナの影響。そうなんだと思う。もうひとつ、金銭の問題が以前よりは増えており、経済的な影響があるのではないかと思う。それはもう簡単に改善してこないのでないか。

【委員】 悪くなっている理由は、患者さんたちの経済状態が厳しいので受診ができないのではないか、先生おっしゃる通りだと思う。それによって受診控えが起

きてると。

【副委員長】 確かに、検査をするかどうかというときに、費用の点でやめますとおっしゃることがあるが、前はそんなことはなかった。

【委員】 物価の上昇ほど、給料は上がっていない。

【委員】 資料を見てみると、令和 7 年 9 月までと令和 5 年 6 年度の月平均と比べると、7 年度は全部減っている。令和 7 年度の合計も、令和 5 年 6 年に比べて下がる一方なので、7 年度の受診者は下がるのでないか。

【委員長】 下がるだろう。それには、経済的なことなども考えられるのかなと思う。

【委員】 開設時間については、補助金等との関係を調べていただいた方が良い。

【事務局】 開設時間が交付税等の要件になっているかという点は、今確認してある範囲では大丈夫と思っている。経営の改善はこれからも努力していきたい。  
開設時間についてはいかがか。今年度は現状のままでさせていただくが。

【オブザーバー】 何年か先、患者さんが増える可能性もあるんだろう。一旦、開設時間を短くしてしまうと、次にまた戻してくださいということは不可能に近いと思う。そこをしっかりと慎重に考えていただきたいと思っている。

【委員長】 今、ぎりぎりのところで皆さんにお願いして出勤してもらってるの、一旦時間を短くして、患者さんが増えたときに増やしますというと難しいところがあると思う。

【委員】 病院の先生方が交代する時間は 17 時台かと思うが、17 時の交代する時間に、バーッと増えるかどうか。どうでしょう。

【委員】 17 時前後で 2 つに分かれたらできると思う。

【委員】 17 時くらいに行ったら、夜勤で診ると。

【委員長】 病院側からそういう意見を強く言ってもらうと短縮しやすい。

【委員】 大人の診療に関してはそうだが、小児はまた別の事情があると思う。

- 【委員】 湖東の状況だが、彦根中央病院の小児科の先生がお亡くなりになった。それが間接的に湖北に影響を与えるのではないかと、湖東と湖北でブロック会議をしている。湖東の小児科は12月、1月にオーバーフローすることが明らかとなり、その方たちが湖北に来られるのではないか、もしくは、長浜赤十字病院に影響が出るのではないかと危惧している。
- 【委員】 彦根中央病院は、1人亡くなられて小児を閉じてるということか。
- 【委員】 もともと彦根中央病院は土日診療されていた。その先生がお亡くなりになった。
- 【委員】 いつ亡くなられたのですか。
- 【委員】 7月。
- 【委員長】 7月に亡くなられていて、それ以降こっちに影響が出ているのか。長浜赤十字病院に。
- 【委員】 それは分析中だが、特に日曜、祝日は間接的に影響が出るかもしれない。彦根中央病院に滋賀医大の先生が助っ人に来られている。
- 【委員】 7月の段階で亡くなられてて、それから、今まで4ヶ月あるのだから、長浜赤十字病院に今のところ影響がなければ大丈夫かと。
- 【委員】 患者数が増える冬だけが危惧される。
- 【副委員長】 休日急患診療所まで影響を受けるのか。
- 【委員】 彦根中央病院は日曜診察をされていたので、その分が長浜に流れてくるのではないかというのがある。
- 【事務局】 県内の休日診療所の状況は、年末年始はどこの休診もいっぱいになり、東近江・湖南・彦根は、圏域外の患者さんたちが行ったり来たりすることがあると聞いている。ただ、長浜米原休日急患診療所に関しては、帰省の方は来られるが、彦根の方がこちらに来られることは今までなかった。ただ彦根から長浜赤十字病院には直接行っておられるようだ。

【委員】 彦根の方まで支援するのは難しいだろう。今までご意見いただいたことについては今後も検討していくこととする。

#### 報告事項 4 市民啓発事業について

事務局から、資料 10 にて説明。

【委員長】 啓発の手段、媒体については今までどうやつたらいいだろうかということで何度も話をしてきた。啓発活動は頑張ってこれからも続けていくということでおろしくお願ひしたい。

#### 協議事項 令和 7 年度年末年始の診療体制について

事務局から資料 11、12 にて説明。

【委員長】 この方法は、一昨年から実施し見直しているが、去年も一昨年もトラブルはなかった。病院は、年末年始どのような体制になっているか。

【委員】 去年と全く同じ。検査日の設定はしていない。急病の患者さんもウォークインの患者さんを診るような体制を整えようと思っている。

【委員】 当院も、通常の体制。発熱患者さんが来たときは発熱外来で待ってもらつて検査をする。

【委員長】 薬局は、いつも通りか。

【委員】 例年通り開いている薬局を事前調査し、それを取りまとめて、各所に送付させていただく。

【委員】 今年もよろしくお願ひする。コロナ・インフルエンザの検査キットの準備も、余裕を持ってお願ひする。

【委員】 先生方が休日急患診療所で年末年始のコロナ・インフルの検査をしていた中で、やりにくい点などはあるか。

【委員】 医師会の方でも聞いてない。

【委員】 12 月、1 月は、患者さんが増える期間なので、年末年始だけではなくその期

間だけでも検査していただけだと、病院の負担が減るのでないかと思う。

【委員】 経営赤字、繰出金や負担金の改善を考えると、検査をすると相当改善するのではないかという印象を受ける。事務局、検査をすると、レセプト上点数はどうなるのか。

【事務局】 通常、小児の診察は小児加算を算定し 450 点とっている。コロナ・インフルエンザ検査については、検査実施に 225 点、免疫的検査判断料として 144 点で、1 人当たり 369 点算定することになる。

【委員長】 年末年始以外は、土曜日に診療している医療機関が多い。日曜日だけのことなら、月曜日に医療機関が空いたら検査に行くという形で十分対応ができるであろうということで、日曜日はしていない。12 月の連休は年末年始だけで、1 月も1回だけ。すぐウィークデーがある場合は、そこに行くことでいいだろうと思う。

【委員】 看護師さんの負担も大きいのではないか。検査と診察というと。

【事務局】 検査をする日は、看護師の体制を増やしている。

【委員長】 点滴をする際のベッドにベッド柵がないので、両サイドにベッド柵をつける対応をお願いする。

【事務局】 準備させていただく。

【委員】 今年の休日急患診療所の診療日は、何日から何日までか。

【委員長】 12 月 30 日から 1 月 4 日。

【委員】 29 日は、医師会はどこか診療されるか。病院は、29 日から休みになるので、29 日の月曜日は休日急患診療所も病院も休みになる。

【オブザーバー】 年末年始診療の調査は医師会がさせていただく。29 日も診療されてるところもあるので、まとめたらお知らせする。

【委員】 29 日は病院の救急でも対応する。

【委員長】 よろしくお願ひいたします。では、以上をもって本日の委員会の案件は終了とさせていただく。進行を事務局にお返しする。

【事務局】 これをもって、令和 7 年度休日急患診療所運営委員会を終了させていただく。ありがとうございました。

開会 19:10